芦高新聞

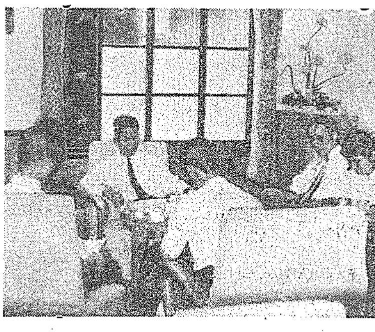
発行所
県立芦屋高等学校
出版部
兵庫県芦屋市宮川町55

万年筆専門店
製作と修理と販売
堀万昭堂
芦屋本通り
電話六四四三

校長インタビュー

三ケ月間の芦高を語る

図書館内の態度に感心


【左から二人目校長、四人目井上先生】

問　赴任されてから三ケ月、もう様子もおわかりと思うので、一つ芦高観といったものから。

答　明るくておおらかでのびのびして—これは好いなあと思いもするが、これでいいのかしらという疑問が追いかけてくる。世相は苛烈だ、経済的にも。そこでまずその重圧を脱れるには、政治にも大いによらねばならんが個々人も団体も従って学校も、もっと手近かな目標を立てて、努力的、規制的—賢実な方向をとって、その中にその果てにというのが順序であるような気もする。宿命的かも知れんが、因果関係でなく、敗戦と建設がでっちゃになっている。若い世代にこれが切り離せたらとも思う。

問　具体的には……。

答　とにかく、学校生活を幾分でもそっちへ持って行きたいが—その鍵は勉学にあると信じている。この間も就職のことである会社の要人と会ったが「学業成績の良いのは、学年の本分である勉学に努めたもので、そのような人は会社に入っても会社につくす人に違いない」といっておられたが、就職するにしてもじっかり勉学してほしい。特にかつての芦高のように、進学率を高めてもらいたい。

問　高校の予備校化が問題になっていますが、それについてはどうお考えでしょうか。

答　それは気をつけねばと思う。だが所謂、受験準備では進学できるとは思わない。やはり平素の学習をみっちりと基礎的に系統的にやらなくては、しかし仮りに準備的なものを加えても、本校の現状では、予備校化は程遠いと思う。

問　自治会活動について感じられたことは。

答　非常によくやっている。文化方面も運動方面も目立つ。夏の大会も迫ってきたが、野球の方はどうかなあ、勝敗は別として悔なくたたかってほしいものだとはいいながら、一つ県下の代表となって、春の大会の恨みを晴らしてもらいたいものだが—ほかの各部も、国体もあることだし、今年は各運動部とも、はりきってもらいたい。自治会活動の希望といえば、いわば消極的方面—それは困難なことだろうが—校舎の管理とか、遅刻とか、校内外の生活とかいうことを、自治的に友情的に導き合うことが出来たらとも思うが、これは現段階では無理かも知れないね。

問　九月になると記念祭が始まりますが、一週間制については、どう思われますか？

答　これはなかなか関心があるでしょうねえ。私もまだ見ていないからなんともいえないが、前からいってきた勉学進学といった方面からいうと、二学期は特に三年生にとって、将来の浮沈を決する重大時期だから、来年は出来たら三日ぐらいに圧縮するか、体育祭を秋に残して、文化祭を春にやるか、ともかく、お互に研究する必要があると思う。先生方とも相談し、君等の意見もきいてみたいと思っている。

問　体育館は建ちそうですか？

答　会員を入れるような施設を兼ねて、体育の上からも、是非必要なのだが、今のような県財政では早急なことは望まれない。今年はさしあたって、運動場の排水側溝、中廊下のセメント改修、中館のペンキ塗装をお願いしてある。来年か来々年には、四教室の増築が可能のようである。

問　何かほかに—

答　近頃感心したこと一つ二つ、図書館内の研究のしぶり、美化部中心の造園、生徒諸君の会釈等。これはと思うことは、全体の集合、学校時中の外出、ごく少数の者の校外生活等。しかし一年もしないと本当のところはわからない。一つしっかりやるように伝えてくれたまえ。

論説

自治会員との融合を

下村内閣に望む

下村内閣成立以来はや半年余が過ぎようとしている。いうべき問題もなく表面平穏に過ぎた八ケ月間ではあったが、いよいよ最後の大任務ともいうべき記念祭が近づいてきた。このへんで記念祭に対する新たな自覚と共に下村内閣の八ケ月間を振り返ってみたい。

選挙後、芦高新聞紙上に発表された下村会長の公約に、講演会をできるだけ多く行うというのがあった。その他の公約も一、二あるにはあったが、予算の面などで余り期待出来なかった。しかしこの講演会を多く開くということは、公約の第一番に述べられ、また具体的にその方針まで表わされたものだけに、どのくらいまで実現出来るか、期待もし、どれ程の成果があがるか興味を持たれたが、現在までにまだ一度しか行われていない。

その間に南極探検の募金や、校内の美化など、身近かな、それでいて困難な仕事をやりとげてくれたのは大いに讃えねばならないが公約である講演会が一度しか開かれず、また一般に努力したとも思われないのはどうしたことだろうか。

講演会を開くにあたって時間的にあるいは講師の関係から開くことがどれ程むつかしいことかは知るよしもないが、事実開催するために努力したのであれば、現在どのように計画が進んでいるかなどその度に自治会員に伝言すべきではなかろうか。それが全国的に不振を伝えられる自治会を一歩でも進歩させるものと思うからである。執行部と自治会員との結びつきこそ、高校自治活動を円滑に運営する上に最も必要なことなのである。以上のことから関連して、毎昼食時の執行委員会だよりのあり方も、再考してみる必要がある。

現在において、執行部の最も重要となっている仕事といえば記念祭ではあるが、記念祭のみで一年間の仕事が終るわけではない。執行部に華やかな活動を望むのは無理ではあるが、私たちはいまこういうことをやっているということを、公けに発表し、執行部のみで行事の企画大半を行い、会員はただそれに参加するのみに終らぬよう注意したい。記念祭から受ける感激がよく云々され、大変良い経験を得たという言葉を往々にして聞くが、今までは、それが単に企画に参加した者のみに限られてはいなかったか。他の大部分の者はただ音楽を聞き、映画を見、展示物を見るだけに終るものならば、記念祭から受ける良い経験など、一般にあてはまるはずはなく、単に記念祭に参加したということだけに終りそうである。以上今年度執行部だけでなく、現在までの執行部一般にもいえることと思うが執行部と自治会員との融合が、まだ十分ではなかったと思うのである。

今年度執行部の業績として、特記したいことは、校内美化に関することである。階段踊り場の油絵廊下の花など従来全く見られなかったものだけに一層印象的であった。廊下に花をいけることなど簡単なこととはいえ、なかなか実現しにくいことであった。一輪の花により殺風景な木造校舎も、どれ程見やすくなったことか。竹製の花びんの一つ一つも執行委員の手により作られたことも忘れてはならない。

来るべき記念祭には現在までの経験を生かし、昨年度の反省会とも考え合わせ、理想に一歩でも近づいた記念祭となるよう研究することを希望する。

記念祭

九月二十三日より開催

＝諸行事昨年度と変らず＝

第八回記念祭は、例年の十月中が国体のために開催出来ず二学期早々、九月二十二日の前夜祭を初めとして今年も一週間行うことに決定、現在執行委員会では一週間の各行事の細目を調査している。現在予定されているところによると九月二十二日に恒例の前夜祭が行われ、二十三日に体育祭、代休を一日おいて二十五日弁論大会、二十六日講演会・映画会、二十七日に音楽会、二十八、九の二日間は文化祭となっている。なお今年はじめての試みとして時間のブランクをなくするため、弁論大会・音楽会開催中に一部講堂に収容出来ない者の間でソフトボール大会が行われる予定である。七月十一日に生物第一教室で行われた企画委員会では体育祭翌日に代休を置くか否かが問題になり、執行委員会案では代休をなくして文化祭を三日にする予定であったが、企画委員側の要望によりやはり一日の代休を置き、文化祭は二日間に短縮されることとなった。

第八回記念祭日程予定

前夜祭	九月二十二日
体育祭	二十三日
代休	二十四日
全国優勝弁論大会	二十五日
講演会・映画会	二十六日
音楽会	二十七日
文化祭	二十八日
	二十九日

記念祭行事計画

▼前夜祭＝前年度より例年のフォークダンスがサークルダンスに変えられていたが、本年も昨年度と同様サークルダンスを採る予定。すでに女子体育の時間に実験済み

▼弁論大会＝今年も昨年に引続き本校弁論部主催、全国高校優勝弁論大会が講堂で行われる。

▼講演会＝今年は趣向を変えて去る六月に登頂成功のマナスル登山隊の隊員（氏名未決定）か毎日新聞運動部長南部圭之助氏のいずれかを予定。

▼映画会＝音楽映画を予定しているが、記録映画・劇映画も候補に上っており、未だ確定的なものは出ていない。

▼音楽会＝午前中は校内音楽会、午後の招待音楽会には京都市交響楽団の招待はほぼ確定的。

給品部の移転決る

本・中館の中庭へ

本館二階の給品部の部屋が来る九月一日より体育教官室から渡り廊下に面したところへ移転されることとなった。これは前校長の時からの案であったがのびのびになっていたもの。運動部員の使用の便宜上、校舎内での飲食などの理由による。経費は約三十万円で、育友会と県費によってまかなわれる。工事は夏休みに入るとすぐ行われ、八月中に完成の予定。

運動場西端の排水口も

給品部の移転と共に、夏期休暇中に、運動場西端に南北の排水口および中館のペンキぬりかえ、運動部部室に電気がつけられる。

訂正

前号一面教師異動欄の桂先生東京体育大学卒を東京教育大学体育科卒と訂正致します。

校内弁論大会行わる

昨年予定されていながら応募者なしのため中止された校内弁論大会は、本年も弁論部により企画され七月十七日午後一時半より本校講堂において行われた。

昨年の失敗と考え合わせ、弁士募集は期末考査前の六月十五日より行わていたが、やはり出場者数は少く、三年に至っては皆無というありさま。二年に三名

一年生は八名であった。

会場はほぼ六分の入りで鋭いヤジもとび、出場者の少いのにもかかわらず各弁士は時間をフルに使用熱弁が聞かれた。なお審査員は前島・安田・金崎・熊谷各先生。

出場者次のとおり。

二年・真砂公昭（C）木間瀬文子（E）馬場紘平（G）

一年・河中賢治・安丸昭（A）佐野真琴（B）中川郁子（C）赤松由里・中俣傑（G）助野雅子・野口陽子（J）

一位　助野　雅子
二位　真砂　公昭
三位　馬場　紘平

〃二年学年集会行わる〃

七月四日ロングタイムに二学年で初めての試みの学年討論会がクラブ活動と学業の両立についてという議題のもとに、A組代議員金井君の議長で行われた。はじめは意見が少なく沈滞気味であったが、中程より活発な意見が見られるようになり、この種の会合としては一応成功していた。

裏表独語

◈新聞社会面の水死者数の増加と共に、また夏休みの季節になった。海へ山へ、連日の驚くばかりの人出の数が華やかに報導され、やがて九月ともなれば、何事もなかったかのごとく忘れられていく。

◈約二ケ月間の季節、それは痛ましい水の犠牲者が毎年数多く出て来る時であり、青少年の犯罪が急激に増加する時期でもある。

◈われわれは新聞紙上に報導されるそれらの事故、犯罪を見、ある時はあわれみを感じ、ある時は恐怖さえ感じる。しかしそれらはいつまでも頭の中に残るものではなく水泳と共に、映画・ハイキングあるいは友達同志の市内漫歩と共に消えてしまうものである。それで無事に一ケ月間が終るのならよい。しかし無事ですまなくなる時もある。

◈暑さで何から何まで調子の狂うこの季節、それらの事故が絶対われわれの身辺に振りかからないとは誰が断言出来よう。事故は自分が起さなくとも他から振りかかってくるのである。自重するに越したことはあるまい。特に私が芦高入学以来初めてケンカを見せて貰った一年生諸君、後から後悔しても取返しのつかぬことになりますよ。

◈海も結構、山も結構、しかしいつでも学生らしさと秩序だけは忘れないようにしよう。馬鹿気たことをいうといわれるかも知れないが、とにかく調子の狂う季節、夏なのだから。

産業経済新聞
大阪新聞 専売所
産弘舎新聞舗
北店　芦屋市大原町194（電5676）
南店　芦屋市茶屋之町89（電2578）

撮影部・カメラ部
合資会社　芦屋写真室
国鉄芦屋駅北出口前
電話芦屋4736

兵庫県公認
芦屋珠算学院
芦屋市茶屋之町57

良い品を安く
久堀運動具店
芦屋三八通り
電話芦屋3131

記念祭　今年こそ！

記念祭が昨年より一週間ばかり早くなって九月下旬に行われる事になった。

しかし、本年度は校長以下多くの先生方の移動があり、芦高脱皮の時機と叫ばれている現在、記念祭についても、大学進学率の低下に刺激されてか、批判の声があがっている。生徒間にも三年生にもなると少しではあるが他の学年に比べて日数縮少の声は多い。清水校長が「今年のを見せてもらってから来年の日数その他を考慮する」といっておられるようにこれからの記念祭のあり方如何も今年の記念祭によって、大部分決定されるのではないだろうか。

諸君！今年こそ、本当に充実したものにしなければならない。記念祭は芦高の誇るべき最大の行事であり、伝統であるから、更に充実したものに育てあげて行くべきである。あなたまかせの気持は捨てて、全校生徒が記念祭だけでなくあらゆる方面に積極性をもつ必要はなかろうか。

× × ×

その意味で昨年の自治会活動において大いに活躍された先輩、児玉隆也さんに特別寄稿していただいた。

現代の青春

大分以前のことだが、早大で某雑誌社の主催により〃現代の青春〃と題した討論会が開かれたことがある。立錐の余地もなく講堂を埋めた〃青春〃を前に亀井勝一郎、中村光夫、吉行淳之助の三氏が講師として所感を述べた後、それぞれの観点から現代の青春を論じ合った。

その中で吉行淳之助氏（氏は所謂戦中派に属する年令の人だ）の話は、現代（歴史的分岐における現代でなく）に生きること、現代にその青春ー恋と夢と冒険とセックスに満ちたそればかりを意味するのではない。貧困アルバイト、就職難、あるいは戦争への恐怖に満ちたそれでもあるーを愛すことの意義を考えさせてくれた。氏の時代の青春とは明日を信じられぬ青春であったのに対して、少なくとも現在は明日ー未来ーに希望を見出し得る時代だと語られた。

芦高の象徴

この討論会と、記念祭そのものとどんな関連があるのかときかれればそれまでだが、何か僕達の記念祭は芦高の明日への意気込みを象徴しているように思えるのだ。一つ一つが更に次への過程として蓄積されて行く、そこに未来を信じる喜びと自信が生まれるのでなければこのような大行事は存在意義も認められないし、また存在しようはずもないだろう。それはさておき、いつも感じることだが僕達卒業生にとって記念祭そのものもさることながら、あの記念祭歌が実に何ともいえぬ響きをもっていることに驚く。記念祭には秋ー十月ーのロマンスがある……。（ロマンス＝ラヴロマンスに非ず）〃詩人ダンテの情熱が〃に始って〃我が青春に幸多し我が学園に幸多し〃で終るあの歌声に何か郷愁に似たようなせつなささえ覚える。ある先生は記念祭は卒業生に母校を想い起こさせ卒業生と芦高を結ぶ絆としても大切だと語っておられたが、卒業してみると、なる程と思う。何か特別の関係ー自分の属していた部の指導ーがある人はともかくとして平常余り学校に行く機会のない人にとっては野球の応援を除けば記念祭をおいて他に在校生と交わる時はないだろう。

芦高で生活した人は皆大なり小なり何らかの想い出を記念祭を通じて有していることと思う。卒業してみて自分の高校生活に〃あんなことがあったなあ〃というような回顧をもてないのは淋しいことにちがいあるまい。

現体制になったのは八年前

先日友人からの来信に「今年も一週間になるそうだ」と書いてあった。今年もと書かれているのは毎年（少くとも僕の在学中三年間）反省会の論点としてその是否が云々されているからだ。記念祭が現体制になってから七年、今年で八年を数えるが、これは大変なことだ。その間にはさまざまの障害があったことだろう。昨年、一昨年とは何不足ないまでの設備が整った下で行われたけれども、それ以前、つまり一回から五回までの記念祭は比較上の暗闇はあれ、ともかくも種々の障害を越えてのものであったという。記念祭なる名称以前の文化祭から始まる芦高文化もそのような試錬を経ての姿なのだ。そういった観点からも今日ある記念祭は単にその年の一行事にのみ終るには余りに尊びすぎるのではあるまいか。

僕は徒らに老人めいた懐旧的感興から記念祭の存続を願うものではないけれどもー。

ともあれ記念祭一週間制の是否は充分論議されてしかるべきであろうが、僕個人の意見としてはいわずもがな一週間制を唱える。これがばらばらに切り離された時どんなに淋しい思いを受けることだろう。そうした時は文化祭・体育祭・音楽会……であって、もはや記念祭なる名称は感覚的にいかに罪悪感のない焦点のボケたものになることだろう。

僕は学寮にいる関係から、全国各地の高校出身者と接するが、芦高の記念祭を彼等は〃すばらしい〃と賞讃する。何大学に何人入ったとか、入学率は何％だったとかにあくせくしている同じような型の高校がひしめく現在、学習の面は当然のこととして一つぐらい他校にない、これだけは真似が出来まいと誇れるものを持っていても悪くはないではないか。

太陽族へのレジスタンス

東京の高校生の何と無気力ー虚脱としてーそうなことか、芦高に見るあの溌溂とした所等微塵も見かけられない。

よく記念祭が学業に大きなブレーキをかけているというようなことをいわれるが、はたしてそうか僕は疑問に思う。そんなにまで追いつめられた問題であろうか。勉強とクラブ活動・自治会活動の問題と同様、どちらかを選べというような二者択一的な性質のものではないはずだ。との某先生の持論を思い出す。一方、芦高生の記念祭に対する態度にも反省すべき点があり、記念祭そのものにも改良せねばならない点も多いことは認めなければならないだろうが。ともあれ今度の第八回記念祭成功の可不可も全て直接参加する芦高生の気持いかんにかかっていることも明らかな事実であろう。

何もかも忘れて一つのことに熱中するということは僕達にとって必要なのではないか。せめて記念祭の一週間は青春のエネルギー発散の場として、大いにフォークダンスに興じるもよし、技を競うもよし、唱うもよし、はたまた食うもよし、それが本当の意味の僕達の持つ青春のエンジョイであるならば、太陽族（僕はこのジャーナリスティックな言葉を使うのは好まないが）なる連中が現代学生の代名詞の如くいわれていることへのせめてものレジスタンスともなろう。僕達も卒業生として第八回記念祭の成功を祈りたい。卒業してはじめて、在学中とはまた異ったものを記念祭に見出せるものだ。

楽しき哉記念祭！

児玉隆也（早大政経学部）

意外に多い就職希望者

―休暇中に実力充実を―

丸　茂　喬

昨年度の就職活動がやっと終ったばかりであるのに、本年度の新求人が早くも始まって学校の就職係は全く年中無休の感がある。

昨年度は大変好調に進んで卒業後も新らしい就職希望申出があったがそれを上廻る多数の、しかも一流会社の求人申込みがあってめでたく採用決定した者もあり、また現在採用試験進行中のものも三社ほどある。従って近く一〇〇％就職決定を見ることと思っている。

本年度の就職活動は四月下旬以来着々と進んでおりすでに係先生の会社への挨拶廻りも一〇〇社程終っているが、今年の求人状況は昨年に引き続き経済界好転の影響を受けて非常に活発であると予想される。現在すでに十社ほど求人申込みがあり特に銀行関係が多く中には入社試験の進行中のところもある。一般に求人は昨年よりもいっそう早くなって夏休み中には一流銀行、会社の求人が出揃うことと思われる。

これに対し、今年度の就職希望者は意外に多数で男子四七名、女子一〇八名、合計一五五名で、昨年よりぐんと増えている。この数は近畿高校中でも一、二位の高位である。従って競争も相当激烈であると予想せられ特に男子の希望者が多いので余程がんばらなければ、卒業期に相当数の未決定者が残るのではないかと心配している。就職係もこれから夏休暇もほとんど返上して炎天下を毎日馳け廻り非常な苦労をするのであるから就職希望者もこれに応えて、どうぞ休暇中しっかり勉強していただきたいと思っている。

近年実業学校と地方高校の進出はめざましいものがあるから普通高校卒の就職は追々と困難になり何か優れたところや何らかの特徴を持たない限り、ただ漫然と就職希望というのは無理である。また一般に入社試験は段々早くなる傾向があるから将来就職希望者は第二学年当時からなるべく早く進路を決定して珠算、タイプ、簿記など就職に必要な技能の練習に努力するよう希望する。

（筆者は本校補導課長）

時事解説

参議員選挙

さる七月八日『改憲の是非』への国民の審判ともいうべき我国にとって重要な意味を持つ参議員選挙が行われた。この選挙で政府と自民党とは憲法改正を打出し、保守派が参院議席の三分の二を制し得たならば、次の通常国会あたりに小選挙区法案を通しその上で衆院を解散、衆院の議席の三分の二を確保し、その上で…という積りだったらしい。また一方社会党などいわゆる革新派としては、それを見通して『憲法改悪、再軍備反対』のスローガンを持って戦ったのである。すなわち憲法改正、再軍備進展の線をとるか、平和憲法擁護の線を支持するかの大きな一つの山を持つ選挙であったといっても言い過ぎではない。この意味で、われわれ未有権者としての高校生の中でも興味を持って、結果を見た人も多かったと思う。

参院選挙の結果、緑風会の著しい敗退、地方区、全国区を通じての社会党の注目される進出は、いよいよ良識ある参院から二大政党対立の参院への移り変りが明らかである。それ故参院が衆院と同じことを繰返すのであれば、二院制の意味が非常に稀薄になるのではないか。それはそうとして革新派が、非改選議員を含めて三分の一を上回る議席を占め、憲法改正の発議を阻止することの出来る数を確保した。このように自民党が社会党に押された原因としては、年々ふえる新有権者に革新支持が多いこと、自民党の掲げた憲法改正の旗印が、選挙民に〃逆コース〃の感じを与えたこと、自民党の選挙民に対する訴えに迫力がなかったこと、自民党が憲法改正に対して何か割り切れない、あいまいな態度を取ったこと、政府、与党ともに内部不統一であったこと、一方には沖縄土地問題について積極性がなかったこと、日ソ交渉の問題で党内での意見の対立などで、国民の目に不安を感じさせたためであろう。自民党は依然として参院の多数を占めたことにはなったが、緑風会の不振のために保守あわせても三分の二はとれず、保守派の今度の選挙での最大目的である憲法改正も民意の投票によって阻止されたという意味になる。

また参院選挙は総選挙と違ってそう直接的に政権の移動には関係はなく、ただ政府に対する国民の意見の動きをはかる尺度とし、その結果は重視しなければならない。そして今後の政局に大きな影響を及ぼすのである。今度の場合について見ても、今後三年間、考えて憲法の発議も不可能になり、憲法改正をめぐる保守・革新の対立もゆるみ、政界の当面の問題として日ソ交渉再開問題、沖縄土地問題に移りゆくであろう。

今回の選挙は保守合同、社会党統一後の最初の大きい選挙であったが、社会党は統一の強さを見せ自民党は内部不統一の弱点を見せた選挙である。だがやはり自民の方が遥かに多い。そしてまた自民党には業界・官界などの出身者社会党には労働組合の出身者が多く選ばれているが、しかしその利益のための代表でなく、国民から選ばれた名誉ある代表者であることを意識し、深みある建設的な国会にしてくれることを望むのである。国会が論議中心に動くようになれば、国会から暴力などという非常識なこともなくなるであろうし、議会政治は向上し、二大政党対立の意義も生まれてくる。

それにつけても残念なことは投票成績が悪いことである。投票率全国平均六割二分であって、実に低調な選挙である。こんなことではわが民主国家日本の前途が思いやられる。棄権には、今度の場合乱闘国会に愛想をつかしたとか、選挙の方法がしにくいとか、いろいろいわれているが、非常に国民の考えて見る必要のある問題である。また今の国会や政党の在り方政治の有様に対する痛切な抗議とも考えられ、政治家にしても一考を必要とする。

以上今回の参院選挙のことについて述べて来たが、われわれ高校生としてもこういう事態に注意して将来われわれが選挙権を得た暁にはよく熟考して、われわれの一権利である一票を大切にしようではないか。（F記者）

今年の合宿中止決定

七月四日運動部顧問会議で「今年の運動部の合宿は山岳部を除いて、全部中止する」旨決定され、職員会議でも可決された。しかし県代表になると必要に応じて認められることになっている。合宿中止の理由について次のことがあげられている。

一、合宿場所がない。通い練習でも十分効果が上げられるのではないか。

二、年中行事化しつつあること。二十六年頃までは二、三の部だけだったが二十九年頃から急にふえ昨年では剣道部を除くほとんどの部が合宿を行って、合宿本来の目的（強化、調整練習）が失われつつある。

三、風紀問題。

四、合宿中の衛生状態が悪い。宿舎として使用されているのは作法室、本館の三階で室が狭いうえ蚊の害が多く、そのうえざこねするなど休養が十分とれない。

五、経済的理由。部としては一応自由参加という名目ではあるが、実際は上級生や先輩の関係上参加しなければならなくなり、費用もかかるため、アルバイトをせねばならぬ生徒には大きな負担となる。

× × ×

この中で一番問題になるのは風紀問題である。顧問・先輩・部員間が融和されている部は別として新任やその運動に経験のない顧問である場合は、どうしても指導面は先輩に任すことになり、顧問が部の相談、世話役であるにも拘らず、その立場が無視されがちである。また合宿時に仕事の都合で泊まれない時には、夜だけ遊びに来て、酒・タバコ類を用いる先輩もあり、現役部員に与える影響は少なくない。合宿費用として先輩から寄附金を集めるためか、なかなか複雑な問題になっている。

また合宿中の世話は食研、女子部員、有志の女子によるのが普通である。せっかく作った料理も部員から「まずい」と苦情が出るのが度々で、どうしても私費を出すことがあるという、それに夜の片付けをして帰ると、八時頃となり、先生や部員が責任をもって送っているとはいうものの父兄にとっては心配の種である。

これに対して各部ではどうだろうか、サッカー部の前顧問大松先生は「当部では先輩も一緒に泊ってもらって夜は技術の研究、昼は強化練習のため、絶対乱れた生活はさせていない」と強調しておられる。

× × ×

十四日の運動部幹事会では各部キャプテンより「ぜひやりたい」との意向が示されたが、その理由は、チームワークを作るのが第一目的で、その他バスケット部から「一年の基礎練習が絶対必要だ」と強調された。しかしそれ程大きな反対理由も述べられなかった。

× × ×

しかし合宿の効果は十分あるのに、なぜ改善策は立てられなかったか。顧問会議が期末考査の直前に開かれたとはいえ、なぜ生徒と共に相談されなかったか。部活動に直接影響する問題であるだけに甚だ遺憾である。

さて運動部諸君、毎年の合宿をどのような気持で過して来ただろう。ただ漫然としたリクリェーション的な気持で過した者が案外多いのではないだろうか。この機会に自省すると共に、これからの部活動の在り方を考え直す必要がある。

新聞・雑誌
印刷全般
大和出版印刷株式会社
神戸市葺合区北本町四丁目
電話葺合②3523・4583番

校内トピックス

文法

◇芦高に入学した最初の英語の時間に「外国語を知らぬ者は母国語も知らない」とかいう名文？をドイツ語でハッキリ書かれたH先生、生徒を教室に立たせる時にいわく「立っとる」命令形を終止形でいうとは先生の英語も怪しいもの。

× × ×

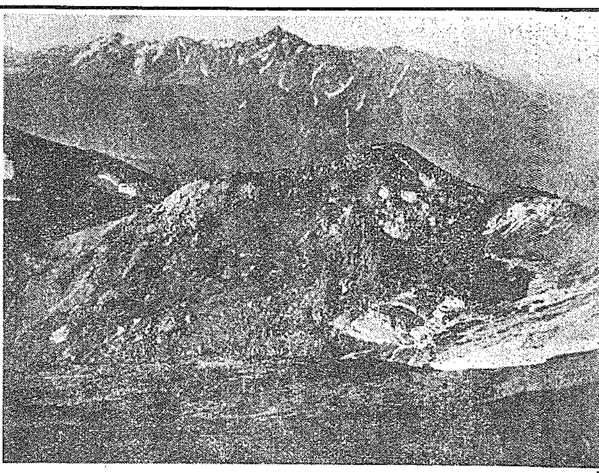
御謙そん

◇教生の授業参観のあったある日の国語の時間。ちょうど「長烏帽子」の説明にさしかかり、黒板にその絵を描かれた。いつも自慢に余念のないT先生、今日はどうしたことか「ヘタですがヘタですが」を連発してなかなかご謙そん、生徒は呆れるばかりでした。

× × ×

ウマイナア！

◇日頃「字がうまい」と自慢している国語科のM先生、ある日、黒板に「忍」という字を書いて「ウマイナア」と一人で感心していると教室の後の方から「ウマイナア」という声がしきり、先生はいよいよ御満悦の態、ところが生徒はチューインガムが「ウマイナア」



山岳部、剣岳を縦走

去る六月の日本隊のマナスル登頂に刺激されて、今年日本アルプスでは空前の人出が予想されている折から、本校山岳部が剣立山縦走を八月一日から十日で行う。

人員は関大山岳部日比君及び木田、津田両先生を加えて十名である。

【日程予定】

八月一日	大阪発—新潟（魚津）
八月二日	魚津—阿曽原—仙人池（第一キャンプ）
八月三日	C1—池ノ平小屋—近藤岩—真砂沢（第二キャンプ）
八月四日	C2—剣沢雪渓（グリセード練習）
八月五日	C2—平蔵谷—剣岳—長次郎谷（剣岳アタック）
八月六日	C2—剣沢小屋—立山—五色ケ原（第三キャンプ）
八月七日	C3—刈安峠—平の渡場—東沢出合（第四キャンプ）
八月八日	C4—針ノ木谷—針ノ木峠—大沢（第五キャンプ）
八月九日	C5—扇沢—大出—大町
八月十日	大阪着

写真は白馬より立山を望む

ベスト4

芦屋、県尼、明石、洲本

石田先生予選の予想を語る

朝日新聞主催の夏季全国高校野球大会の予選は県下八十四校によって神戸市民、西宮、甲子園の各球場によって行われる。この大会の予想を野球部石田監督に語ってもらった。以下はその大要である。

市西、滝川の勝者と二十六日西宮球場で当ることになったが両チームとも左投手で右打者ばかりの芦屋としてはややにが手ではある。しかし市西は過去数試合の練習試合にいずれも大勝している。また滝川が出て来ても投手にスピードはあるが、慣れれば打ちくずすのは易しい。しかし捨身でくるので油断は出来ない。結局ベスト4は県尼、明石、洲本、それに芦屋であろう。いつも県尼に敗れているが県尼に敗れるというよりは好投手今津に敗れたといった方が適当である。洲本の投手もよい。その他尼北などは一度もあった事がないのでやりにくいのではないだろうか。さて芦高の現在チーム力は最低といってよいだろう。これを決勝戦に最高頂に持って行くつもりである。打力も最近寺本が不調だといわれているが不調とはいえ毎試合一本は打っているし、調子にのればいくらでも打つ。また三番の松平の打棒も確率をまして来ている。こう見て行くと松葉の打力が勝敗に大きく影響するだろう。メンバーは春の時と同じであるが優勝する自信はある。

七月二十六日於西宮球場
芦屋
市西
滝川

芦高メンバー

投手	西川	③
〃	松浦	②
捕手	高野	③
〃	長谷川	②
一塁手	松葉	③
二塁手	林	③
〃	大西	②
三塁手	佐貫	③
〃	磯野	②
遊撃手	松平	②
左翼手	寺本	②
〃	木下	②
中堅手	渡海	③
右翼手	有井	③

松葉のホーマーも空し

県尼に敗る

＝春季大会＝

決勝は奇しくも同じセンバツ兵庫県代表校の県尼との対戦となった。十八日神戸市民球場において行われたが一挙に今津投手をうちくだき三点をあげながら二回から降雨のため中止延期となり続いて廿三日尼崎市民球場で行われ熱戦を展開したが延長十回遂に昨年秋の雪辱ならず県尼に名をなさしめた。

（決勝戦）

芦屋	0001000000	1
県尼	0000001001	2

（延長十回）

選抜野球大会参加後援金決算書

収入内訳

一般よりの寄附	金 六六〇、八四六円
校内生徒よりの寄附金	二五〇、八〇〇円
合計	九一一、六四六円

支出内訳

合宿補助費	一五〇、四五一円	炊事費及其他合宿諸費用
練習諸費	一九六、八一〇	練習球及試合球代ボール張替の代金
ユニホーム等新調費	五四、七三〇	別注文特製ギャバユニホーム二十人分、帽子、純毛ストッキング代
応援関係諸費	五三、三九五	一般応援団の入場券代
渉外諸費	四一、一一〇	特別コーチャー其他に対する謝礼
雑費	四一、五八九	寄附金募集要項及領収書印刷及送料
予備費	四六、三五四	公会堂使用料及其他
合計	五八四、四二九円	

差引残高　三二七、二一七円

なお各科目支出明細は学校事務室にあります。

透視

投稿歓迎　出版部又は投書箱まで

職員室の「ついたて」

第一、第三職員室の前に「ついたて」が堂々とつっ立っているがあれは一体何のためであろうか。生徒が先生に用事のある場合、そのついたてのおかげで完全に先生がおられるのが見えなくなる。その結果いちいち職員室の内部まで入って確かめねばならぬ、その都度職員室は混雑する。また職員室と生徒との心壁を作っているように思われる。外来者や父兄も職員室に入ろうとした場合「ついたて」のために、なにか恐ろしいような感じを受け、入口でまごまごしているのを見かける。職員室は開放的で誰でも入れるような雰囲気にして欲しいと思います。校長室も同様にお願いします。（S）

（答）職員室に「ついたて」のある理由は先生方が仕事をしておられる時に生徒が入ってくると気になって目をその方にそらす。そのため自分の用事をしているのがはかどらないしまたどの先生に用事があるのかとまどうといった理由で「ついたて」があるのです。

あいさつ

この間のH・Rの時間、このような質問があった。「僕はよく近所の女の人や前に同級だった女の人と顔をあわすのだが、そのような場合どうすればよいのでしょう」この時は皆笑った。しかしこのような場面に出食わした時だまって通りすぎているのではなかろうか。どちらも「礼をするのがあたりまえだ」という人があるかもしれないが、それは確かにあたりまえだ。しかしそれを実行している人はその中の何パーセントかだろう。その人たちも変な目でみられひやかされるのが積の山だ。そしてこれの方があたり前にされている。男女共学の今日、まだ昔の封建的思想がぬけぬとは困ったことだ、このような考えが真の男女共学の意義を失い男女間の交際をわき道へそらしてしまっている。まずこのような現実から実行していって本道へもどすよう努力しようではないか。（二年男子）

軟式庭球

兵庫県中央決勝大会（於明石）

四回戦
杉原岡田4—0宮松清水（加古東）

五回戦
杉原岡田2—4池田坂井（洲本東）

これにより杉原、岡田組は八月八、九日に伊勢で行われる全日本高校選手権大会の出場権を得た。

柔道

全国大会兵庫県予選
第一試合　芦高不戦勝
第二試合　芦高3—1鈴蘭台
第三試合　芦高1—3甲南

ラグビー

対神戸定期戦
芦高3（0—0、3—0）0神戸

水泳部

対市尼定期戦（市尼プール）
芦屋51—66市尼

なお芦高が一位をしめた種目
二百米リレー（川上、前田、井出、真鍋）
二百米バタフライ（川上）
百米背泳（大西）
二百米自由形（井上）
四百米自由形（井上）
八百米自由形（井上）

池田さん四位に

ESS

弁論部も入賞

ESS部は六月十日、姫路公会堂で行われた神戸大学主催英文毎日後援による県高校英語弁論大会に出場、右の記録を収めた。

四位　池田紀子　二年

弁論部も三田高校主催の優勝弁論大会に二年入江恂一君が八位に入賞した。

校内発表会開かる

演劇部

演劇部、BD部共演の校内発表会が六月二十三日一時半より本校講堂で行われた。劇は「英語を話せばこの通り」という喜劇でなかなかの熱演であった。またBD部のバレエは練習不足で方々で苦笑が起っていた。

十二名市展に入選

六月初旬より十日間、芦屋市立精道小学校において開かれた市展にわが校からも福山、木田両先生を始め十二名が入選した。入選者は次の通り。

三年　村上　徹・村井　滿
　　　三瀬　安彦・矢島　洋三
　　　福田　英秋・大浦　道生
　　　福井　完子
二年　関矢かずこ・岩田　章
　　　竹内美沙子・林　慶子
一年　谷口　欣弥

中西先生談　今年だけではないが、三年生を初めみな熱心で趣味を豊かにさせようとする願いがよく出ていて協力的である。特に操作が意欲的であった。また谷口君の病床にありながら入選するということは立派だ。

スポーツ放談

先輩大いに語る

本屋敷、柴田

最大の思い出はやっぱり全国優勝

六月二十九日、夏休みを利用して本校を訪れた本屋敷、柴田（立教）両先輩に磯野、渡海主将を相手にいろいろ語ってもらった。

渡海　本屋敷さん、ベスト9になられておめでとうございます。

本屋敷　いやあ、特に遊撃は他の人が余り振わなかったので自分のような者が選ばれたのでしょう。打率は最後の二試合でガタッと落ちて十三位になってしまった。芦高の試合は東京にいては新聞に載る程度しか分りません。だから勝てば強く、負ければ弱いと思っています。

渡海　もうまったく東京弁になりましたね。

柴田　しかし関西出身の者が多く、みんな関西弁でやっていますよ。

渡海　在校中の一番の思い出は

本屋敷　優勝するということは最大の思い出になりますね。君も最後の年だから優勝してもらいたいですね。大学の練習は芦高で耐えられたら何とかなりますよ。

渡海　大学での合宿は

柴田　野球部の寮があって特別の時でないとキャンプを張らないが、いわば一年中合宿みたいなものであきて来ますよ。

本屋敷　合宿すると何をしなくてもお互いに気どころが知れて来てチームワークが出来て来ますね。

柴田　高校時代はみんな騒いで楽しいだろう。

渡海　はあ（ニャリとする）同窓生のいる学校とする時はどんな気持ですか。

本屋敷　僕らは学校の代表で試合をしているんだと思っている。向うもそう思っているだろ。石本君（現早大捕手）なんかの時「打たせてくれよ」などと冗談いうが打たせてくれない。

柴田　石本君ところと他の学校の試合を見ていて、石本君がボックスに入ると個人的には打ってくれないかなあと思うよ。

本屋敷　僕らが立教へ入った時先輩が誰もいなかったので気を使った。今の学年（三年）が一番のんびりしているよ。世話をやかずに怒られずにね。

渡海　応援は。

本屋敷　大学の応援は物凄い。芦高の応援は疲れて来ると小さくなって来るし上品すぎるね。

渡海　初めての試合にあがりませんでしたか。

本屋敷　二度など二度甲子園などに出たものは神宮へ出てもあがらないね。しかしそういう経験のないものはやっぱりあがるそうだ。

渡海　芦高をどのように他の人は見ていますか。

柴田　よく人に話をすると大変ほめてくれるね。恥かしくなる程、また他の学校は本校のように自由に恵まれていないそうで。

本屋敷　最後に、前にはああいったが、勝つことだけでなく精神力をつけることだ。とにかく夏の大会には頑張って下さい。

渡海　はあ、頑張ります。

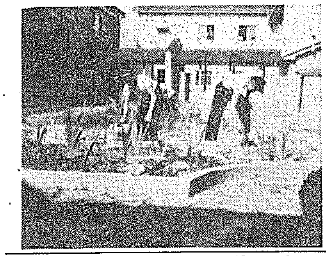
柴田　一試合ごとに感激を持ってやって下さい。

渡海　有難うございました。

中庭の花壇

九分通り完成

中庭の花壇はいろいろな困難のため三年はかかるといわれていたが、急に職員会、生徒会などで確定、現在九分通り完成した。これは美化部員の協力によりいっさいの作業が行われ、特にコンクリートは素人とは思えぬ程上手に出来ている。なお完成は記念祭の前頃だろうとのことである。



（仕事に励む美化部員）

松平君負傷

予選には差しつかえぬ

硬式野球部松平一郷遊撃手は去る六月十一日練習中、西川投手の死球を後頭部に受け三日間芦屋伊藤病院に入院したが現在復調、全国大会兵庫県予選には出場出来る模様。

夏期休暇中の

図書館開催日

本校図書館は夏期休暇中、次の日程で開催される。

七月二十日、八月六日、十三日、十八日、二十七日。

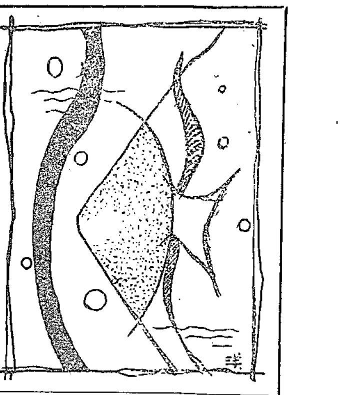
運動部の試合を

実況放送

出版部では放送部とタイアップして、運動部各部の戦況をテープ・レコーダーに録音、校内に流すため準備を進めている。すでに去る六月二十三日の硬式野球部県下大会対県尼戦をアナウンサー、新藤秀夫君（2F）で録音、その後六月二十九日対清水谷高校（大阪）を録音するなど目下練習中というところ。

現在の予定では九月より運動部の試合より好ゲームを選び昼食時に放送される。

なお出版部では同時に週一回の芦高新聞ニュースの放送を検討中。



創作

うどんと生徒

井川実

五時のオルゴールが鳴ってから大分経っても、部屋の中はまだ明るい。が先刻解析の問題をききに来た生徒が頭を下げて帰っていってからは、周囲が特にこの職員室の中までがバカにひっそりしてしまった。

「今日もやってるのかな」

一週間ばかり前から放課後になると中庭の花壇作りをやっているH君を、私は思い出した。パタンと緑色の表紙の「成績簿」を閉じて椅子を立った。

「試験も近いのに……」

渡り廊下を通って中庭に出て見る。コンクリートの花壇はきれいな対象図形を中庭一ぱいに広げている。そしてまだ完成されていない真中辺にはシャベルや金槌やらの道具が一面に散らばっていて、ずんぐりしたHの後姿は一人だけポツンとうづくまっていた。

「何だ一人か今日は」

「はあ、試験前ですから」

〃誰がどんな事をしてるものですか〃というようにHは、ほとんど顔も上げずに、半円形に巧く作った木の枠の中へ小さなスコップで泥んこのように練ったセメントを入れる手を休めなかった。私はどうもこのHという生徒は苦手である。実際教室では一向に風采もあがらない癖に何処かただの頭の悪い生徒とは違っていた。又それだけ近づき難いような感じもある。

今度はこれも又小さいこてを取って、入れたばかりの泥んこの表面を左官屋の手つきでなでつけはじめる。完全に私は無視されている形である。

「手伝おうか」

「いえ、もう終りです、先生」

そして本当に彼は立上った。

「もう終りかい、これで」

「はあ、今日はこれで終りです。明日はこれとこれと……」

と未完成の部分を私に指して、

「今日のは二、三日してから枠を外すんです……。こうしておいたら肥料が流れないで……」

教室とは反対にHは私に教えるようないい方をした。私はふとそう感じたが、そんな言い方が少しも不自然でない位の豁らかな響をHの言葉の中にきいていた。Hは余程汗をかいたらしく、教師の私の前でランニングシャツを平気で胸の上までまくり上げて、いかにも気持良さそうな顔つきをした。風は向うの栅の枝をゆらして我々の方にもかすかに吹いてくる。

「なかなかやるなあ」

私はわざと感心したような声を出して見せたが、Hはつまらなそうな顔で道具を片づけはじめた。

〃まるで機嫌をとってるようだな〃

以前に観た『暴力教室』の師弟を私は何となく思い出した。教師が生徒に近づこうとしても生徒が受けつけないのだ。そして私はどうもあの映画の主人公のように〃機能的な〃教師にはなれそうにない。〃それにしても生徒の機嫌をとってまで……〃と私は思った。

「先生、もう道具を洗って帰りますが、先生は今日は宿直ですか」

Hは私がそんなことを考えている間に道具を片づけて了って、シャベルとバケツを両手に提げて向うへ行ってしまった。

Hが道具を洗ったりしている間に私は食堂に行って小田さんにうどんを二人前注文した。

〃機嫌をとる〃とさっき思ったことが頭の中にまだこだわったが自分の腹の減ったことも手伝ってどうやらそうしたい気持の方が強かった。

寸時して中庭の方からやって来たHを、さてうどんの鉢の前に坐らせて見ると、じっと鉢の中をみつめたまま なかなか箸を取ろうとしなかった。何か変なものでも……。

「どうした。食べろよ」

「はあ、一寸……何だかこのうどんの為にさっきまで一生懸命やってたような、妙な気持がしたんです」

「うむ!……」

それから私達は黙って食べはじめた。〃それまでむずかしく考えない方がよかろう〃第一私には彼が真面目にそんなことを考えているとさえ思えなかった。

「でも先生」

「ん、」

湯気の中から又急にHが首をあげる。

「でもねえ、先生。何も利益がないのに、一生懸命になって……スポーツでも何でも……やっぱり学生はいいと思うんです」

一瞬うどんをはさんだまま箸が動かなかった。

〃金の為でなければ、利益がなければ一生懸命にもなれないだろう。大人は打算的だ、〃

私には彼がそう云っているように聞える。しかしHは、今云ったことをもう忘れたように、

「腹がすいてるとうまいですね先生」

と私の視線を感じたのかもう一度顔を挙げた。

〃僕等も一緒に考えられてはたまりませんよ〃

先日の授業の時の『今日は月給日』の落書なども案外Hあたりが書いたのかも……。〃だが、そいつは何も悪いことはない〃

……Hはやっぱり苦手である。何処か他の生徒と勝手が違うのだ、どうも話がすらすら運ばない。

このままHに「さよなら」と云って帰られるのは、しかしいやな気持がして、〃何か他の話をしよう〃と思った。

「もう試験だな」

「はあ?『勉強しろよ』ですか……」

〃嫌な奴だ。そんな事を云ったところでお前が出来ないこと位解ってるさ。〃

そこへまだ学校に残っていたらしい二、三人の生徒が入ってくると、他愛もない話をして笑い合っている彼等と、目の前で俯向いているHとがひどく対象的に感じられた。

うどんの湯気で眼鏡がくもり、Hの姿はかすんで消えては又ボウッと現われた。私は何となく途方に暮れてしまった。

彼等は大きな声で陽気に話し、私達はそれをきくともなしに耳に入れながら、急に気まづくだまりこんでうどんを食べ終った。

先に終ったHはつと立上って、自分の食器を窓口のところへ……。〃オヤ〃私は思った。それだけのHの仕草が彼を、さっきまで私の考えていたHと全く違った〃普通の高校生〃のように見せたのだった。

Hは私と目が合うと間が悪そうに視線をそらせた。気のせいか、それは宿題を忘れた生徒などのする一種複雑な、しかし教師からいわせると滑稽でたまらない表情だった。それから彼は大急ぎで食堂を出て行った。「さいなら」……

私は彼がむづかしい顔で机に向う姿を思い浮べた。

ホッと大きな息を吐いて私は立上った。そしてさっきのHの仕草通り食器を窓口まで持って行った。

〃器は元に返しましょう〃

カウンターのガラスに貼った標語をそう読んで、私はひとりでに出てくる笑いを口元にこらえて、食堂をフイと出た。

校庭はすっかり暮れて、流れるような星空が―。七夕と期末考査は近かった。

政治に関心を

参院選挙も終った。革新系が三分の一以上の議席を占めたので、一寸ホッートしたところ……。でも三分の一では、やっと憲法改正を阻止し得るぎりぎりのところだ。前国会でもめ抜いた小選挙区制なんかが自民党の横暴を出しても、可決される可能性もないとは限らない。それに清瀬文相が断案の〃男女共学の廃止〃も。〃男女共学〃による風紀上の問題を文相はいうが明治・大正時代の学生が異性と話をしただけで退学さわぎになったということを堅実なモラルだというのは、全然否定したくなる。男女共学によって相互の理解、協力精神また自然な素朴な男女の交わりというようなよい点の方がずっと多くを占めているという事実を文相に理解してもらえないのが残念である。〃時代の誤り〃という安易な説明ではすまされないものがある。教育三法も成立した。それによって教育に対する文相の権限がつよくなり教育も中央集権的な要素をおびてきたようだ。保守党連は、今や社会保障費の大幅減額を敢行しているので再軍備に躍起になっている……。戦時中、軍隊関係のオエラ方だった人も〃私しゃもうじっとしておられませんよ〃。なんてことをいって国民をハラハラさせてくれる。こういうようなことを次々と考えてみると、政府の御長老の面々が、昔の軍国主義華やかなりし頃の日本帝国の再現を夢みているのではないかという疑いまでもちたくなる。我々が一寸ボサーとしている間にも日本は刻々と動いていっている。しかも復古調で―しかし一方我々は社会問題、政治問題をどれ程の関心をもってみつめているだろうか。先日、阪大の実習生の人に政治問題について質問をしたところ〃政治なんかには興味がありませんからね〃と答えられた。理科系の人だったが……。我々が知らぬ間に教育制度その他が改正（改悪?）され、我々は唯そのわくの中にはめられた集団であったというようなことにならないように我々はしっかりと政治をみつめ、校門を一歩出ればもうそこに発展している多くの社会問題を注視しよう。そして自分達の姿を―それはとりも直さず〃今日本は民主主義の過渡期にあり、すぐこの反省の時期にある〃といわれていることを、正しい方向に導く最良の道であると確信する。

（E）

先輩通信

〃僕の人生術〃

和木邦雄

家庭電化製品の販売は薬品会社や化粧品会社のそれと同様に現代では最も競争の激しいもので、それこそ年がら年中 Task and task と物事を考えるひまもなくマス・プロの今日、われわれもまたそれに便乗した形で、もっぱら会社へ行っては帰り、帰っては行くの単振動をくりかえしているに過ぎない。ユーモアもペーソスもこの限られた中で作られるのであって、それは仕事に執着することにより、仕事に徹することによってのみ得られる。

パスカルは「人間はミゼラブルなものであるが、ミゼラブルであると知るところが人間を大きくする」といっている。最近になって時々自分がしっかりした性根を持っていないとか、全く軽薄な人間だとか、強情を欠いた男であるとかを痛感して、全く滅入ってしまうことがある。しかしそのようなことを少しも感じない時、例えば経済の本とか法律の本とかを読んでいて、何の感想をも起していないことに気がつき、全く味のない時を過していることを考えると、如何にこれが苦のない平和な時間であるとはいえ、それは自分の惨めさを感ずる時と比べて半分の価値もないと思う。それに反して何かを求めしかも何も得ずに苦心する時や、自分の中に獣なものを見付けて悲しむような時こそ、却って真に生きているのではないかと考え、パスカルのいったことが朧気ながら解ったような気がする。

けれど、これは僕のいい加減な一人よがりの考えで課長等にしかられた時の精神的な支持棒かも知れない。とにかく、学生は学生として、社会へ出れば社会人として臨機応変にその時その時を立場は漸々異っても学問なら学問に、仕事なら仕事に徹し、励むことが色んなつまらぬことを考えずに生活出来る人生術だと心得て毎日のサラリーマン生活を過している。（九回生）

たにま

北海道

新聞記者になって走る二年、まだまだトロッコの域を出ないが……、私はこの二月に札幌支局に赴任してきた。私がきたところの北海道は雪と氷にとざされ、まさにさいはての国へさ迷い込んだような感じだった。それよりも驚いたのは新聞が一日遅れて配達されることである。もちろん地元の北海道新聞、北海タイムスなどは朝夕刊ともふつうの時刻に届くのだが朝、毎、読の三紙および日経、産経など東京で印刷される新聞は全部日付けが一日ずれる。しかも東京都内で配達される朝刊はその日の明け方に印刷されるのに、北海道にくる朝刊は日付の前日午後六時頃都内配達分の約十時間前には刷上って、それからガタゴトと汽車と船で運ばれるのだから記事そのものは東京で読むよりもまる二日半遅れるわけだ。

これではニュース価値は全くゼロに等しい。だがこうした実情にもかかわらず一日半遅れの東京紙がケッコウ売れているのだから面白い。つまりニュースは単なる事件の記録ではないからだ。私も新聞記者のハシックレとして考えさせられるところが多い。

× × ×

ところでわが社の札幌支局は市の中央部北一条通りに面している。この北一条通りは北原白秋が「この道はいつかきた道……」と歌ったところ。私がきたころ真白だったこの道も、いまはアカシヤの緑に色どられている。

北海道で生れた人のことを道産子（ドサンコ）と呼ぶが、道産子たちは一年の半分以上を雪と寒さとの闘いに費さなければならない。しかし彼等は雪と寒さとを克服し逆にそれを利用、享楽するすべを会得している。これが開拓者精神に通じるのだろう。みんなすこぶる元気である。さいはての国北海道はまだまだこれからといった観がある東京、大阪を壮年になぞらえるなら札幌はさしずめ少年期。ポツポツにきびが吹きだしたところ。いつかきたこの道を鈴の音高く馬車が走る―。

（岸本昌弘・五回生）

編集後記

◇…六月下旬発行予定が、途中時間的都合で今日に延ばした。記念祭前に、是非もう一号と思ったがこれで終りそうである。

◇…投稿箱が去る五月にとりつけて以来未だ設置されていない。透視欄の原稿は執行部批評の投稿箱〃声〃から採りたいと思う。一層の投稿を望む。

◇…従来紙上に創作・詩など余り発表して来なかったが投稿のあり次第、随時発表したいと思う。原稿を待つ。

◇…芦高新聞に対する批評、希望を掲載して欲しいことがあれば、いつでも結構、最寄りの部員まで

三省堂刊

最近五箇年

大学別入試問題集

三省堂大学受験
英語ラジオ講座
朝日放送　毎夜　11時30分～0時
文化放送　毎夜　0時～0時30分

東京神田神保町　三省堂　振替東京110159

過去五年間の問題はこうだ!

英語　岩田一男編　一七〇円
生物　中路正義編　一〇〇円
国語　荻原浅男編　一七〇円
日本史　藤木邦彦編　一五〇円
数学　三省堂編修所　一五〇円
世界史　尾鍋輝彦編　一五〇円
物理　白井俊明監修　一〇〇円
人文地理　三省堂編修所　一五〇円
化学　白井俊明監修　一〇〇円
一般社会　三省堂編修所　一五〇円
各冊B六判　二三二頁―四八四頁

英文法辞典
鈴木孝夫　東浦義雄　著　携帯判　二七〇円
英語の学習に直接役立つような実際的活用を自由に編纂。辞典として引くことも、参考書として読むこともできる。誰れでもわかる用例、縦横自在な索引など、まさに新しい総合英文法書といえよう。

31年版成る!

絶賛好評を得た30年版にひきつづき、ここに31年最新版を刊行した。本書は今春の入試問題はもちろん、最近五年間に全国主要大学で出題された入試問題を、それぞれの大学別に年度順にまとめ、ヒント・解答をそえたもので、受験準備の参考に一度は活用されるべきであろう。「自分の志願する大学では、どのような問題が出されているのだろうか?」本書はその鍵を解明する。

問題収録校
北大・東北大・東大・一橋大・東工大・東京教育大・東京外語大・お茶水大・横浜国大・名大・京大・阪大・大阪外語大・神戸大・広大・九大・東京都立大・大阪市大・神戸商大・早大・慶大・津田塾大・立命館大・同志社大・関西学院大
（問題収録校は科目によって多少変更があります）